

## 場所・面積

兵庫県尼崎市、12.572ha

## 管理目的

申請サイトは、森づくり、人の交流、産業復興を先導する拠点などとしての役割を持ち、周辺地域に自生する植物の種子から育てた苗を使った100年がかりの森づくりにより、失われた自然の回復と生物多様性の保全へ貢献することを目的としている。

## サイト概要

兵庫県尼崎市の臨海地域に位置する、生物多様性にこだわった森づくりを進めている県立公園。

尼崎臨海地域の失われた自然環境の回復と創造により、ゆとりと潤いのある快適な都市環境を創出し、魅力と活力のある都市の再生を図る目的で2002年3月に策定された「尼崎21世紀の森構想」の拠点地区として位置づけられている。

申請サイト周辺地域の自然をモデルとし、自然性の高い照葉樹林、海岸で見られるウバメガシ林やクロマツ林、平野でみられるエノキ林、里山林のコナラ・アベマキ林、クヌギ林、里地のススキ群落やチガヤ群落などを目標植生として設定している。植栽する植物についても、遺伝子の多様性に配慮して、六甲山系、武庫川水系、猪名川水系に限定して種子を集め、園内に設置した栽培施設で苗を育成して植栽している。種子採取、苗の育成、および、苗の植栽は、市民、市民団体、企業、学校などの参画と協働で取り組んでいる。



## 土地利用の変遷

申請サイトは、元々は海域であったが、江戸時代より干拓が進められ、綿作などが営まれるようになっていった。明治時代以降は周辺が臨海工業地帯として発展する中で、昭和初期には申請サイト一帯に製鉄所などが建設された。そして、高度成長期以降の産業構造の変化や阪神・淡路大震災の被害などにより、製鉄所などの工場は閉鎖され、遊休地となった。その後、2002年に「尼崎21世紀の森構想」の先導地区として位置づけられ、2006年に「尼崎の森中央緑地」が開園するとともに植樹活動が開始された。2014年にはパークセンターなどの施設の設置および開園区域が拡大され、現在では市民団体、学校、企業などの参画と協働により、森づくりおよび森の維持管理が行われている。

## サイト周辺の環境

申請サイトは尼崎臨海地域に位置し、周辺は工業専用地域となっている。周辺に自然植生は見られず、植生は工場や施設周辺の緩衝緑地や路傍、空地雑草群落が見られる程度である。また、港湾整備が進められた結果、自然海岸も残されていない。

## アピールポイント

工場跡地で植物がほとんど見られない場所でゼロからスタートした森づくりであり、植栽する植物としては、生物多様性に徹底してこだわり、種や生態系の多様性だけではなく、遺伝子の多様性に配慮した地域性へのこだわりを大切にしている。

森づくり開始から17年間で、131種、約10万本の苗木を植栽しており、様々な鳥類、昆虫類が自然にやってくるようになった。また、創出した森でありながら、自然観察や間伐体験など、里山林で実施しているような様々な体験ができるようになった。小中学生の環境学習や森づくりの支援を担っている市民団体アマフォレストの会の活動回数は、年間100回を超えており、活発な活動を展開している。自然の少ない阪神間において、様々な自然体験のできる貴重な場所に育ちつつある。

## 生物多様性の価値

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

## 【場の概況】

創出された里山林、草原、水辺などからなるモザイク的な環境が形成されている。場の割合については、里山林が多い。森づくり開始から17年が経過し、創出されたこれらの様々なハビタットでは、里地里山に特徴的な生物が観察できるようになってきた。

## 【主な植生】

里山林のおもな植生は、コナラ－アベマキ林、クヌギ林である。  
草原のおもな植生は、ススキ草原、チガヤ草原などである。

## 【確認された主な動植物】

- 里山林**：シジュウカラ (*Poecilevarius*, 成体)  
キビタキ (*Ficedulanarcissina*, 成体)  
カナヘビ (*Takydromustachydromoides*, 成体)  
ゴマダラチョウ (*Hestina japonica*, 成体・幼体)  
テングチョウ (*Libytheaceltisceltoides*, 成体)  
アブラゼミ (*Graptopsaltrianigrofusca*, 成体)
- 草原**：ヒバリ (*Alauda arvensis*, 成体)  
セッカ (*Cisticola juncidis*, 成体)
- 水辺**：ヌマガエル (*Fejervaryakawamurai*, 成体・幼体)  
ショウジョウトンボ (*Crocothemisserviliamariannae*, 成体)



写真の撮影年月：2023/4/11

写真の説明：植栽から17年が経過したコナラ－アベマキ林



写真の撮影年月：2022/7/23

写真の説明：上空から見た植栽16年目のコナラ－アベマキ林

## 生物多様性の価値

## 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

## 【場の概況】

（文化的サービス）地域住民のレクリエーション、憩い、周辺の幼稚園、小中学校などの環境学習の場となっている。

（生息・生育地サービス）公園内の立地に応じた多様な植生を目標とし、森づくりを進めている。その結果、森の生育とともに公園に訪れる鳥類、昆虫類の種数が増加している。また、地域在来種の木本・草本の植栽による遺伝子の多様性への配慮を行っている

## 【主な植生】

主な植生は、照葉樹林、ウバメガシ林、クロマツ林、エノキ林、コナラ－アベマキ林、クヌギ林、ススキ群落、チガヤ群落である。

## 【確認された主な動植物】

以下の在来種を含む、昆虫類15目163科530種、鳥類9目28科55種（※周辺の護岸や海上を含めると90種）がこれまでの調査で確認されている。

## 【昆虫】

アカガネコハナバチ（学名：*Halictusaerarius*, 成体）、ナミアゲハ（学名：*Papilioxuthus*, 成体）、ヒメホシカメムシ（学名：*Physopeltacincticollis*, 成体）、マユタテアカネ（学名：*Sympetrum eroticumeroticum*, 成体）

## 【鳥類】

シジュウカラ（学名：*Poecilevarius*, 成体）、ヒバリ（学名：*Alauda arvensis*, 成体）、キビタキ（学名：*Ficedulanarcissina*, 成体）、エゾビタキ（学名：*Muscicapagriseisticta*, 成体）



写真の撮影年月：2022/6/27

写真の説明：公園内のカワミドリに訪花したナミアゲハ



写真の撮影年月：2019/5/5

写真の説明：公園内で確認されたシジュウカラ

## 生物多様性の価値

## 価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

## 【場の概況】

公園内には、創出された森、草原のほか、芝生広場が広がっている。また、現在、整備中の区域には、自然裸地や雑草群落が広がっており、開けた環境となっている。公園の東側と南側は海域、西側は運河に面している。

## 【確認された希少種】

これまでに実施したモニタリング調査などにおいて、公園内および周辺の海域や運河上空を含めて、様々な昆虫類・鳥類の希少種が確認されている。代表種は以下のとおり。

## 【昆虫】

キバラハキリバチ（学名：*Megachile xanthothrix*, 成体, 環境省レッドリスト準絶滅危惧種, 2017/6/28)

## 【鳥類】 \*：周辺の海域、運河や緑地上空における確認

ミサゴ\*（学名：*Pandion haliaetus*, 環境省レッドリスト準絶滅危惧, 2022/9/30)

メボソムシクイ（学名：*Phylloscopus xanthodryas*, 兵庫県レッドリストランクB, 2022/9/30)

コサメビタキ（学名：*Muscicapa dauurica*, 兵庫県レッドリストランクC, 2022/9/30)



写真の撮影年月：2017/6/28

写真の説明：公園内で確認したキバラハキリバチ



写真の撮影年月：2021/9/29

写真の説明：公園内で観測されたコサメビタキ

## 生物多様性の価値

## 価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

## 【場の概況】

植生高が10mを超えた樹林やその林縁部は、春や秋の渡りの時期に鳥類の休息の場として利用されているほか、冬季の越冬の場としても利用されている。

## 【対象となる動物種】

毎年、4月末～5月頃、おもに以下の種の飛来を確認している。

キビタキ (*Ficedula narcissina*, 成体)

オオルリ (*Cyanoptila cyanomelana*, 成体)

センダイムシクイ (*Phylloscopus coronatus*, 成体)

コサメビタキ (*Muscicapa dauurica*, 成体)

毎年、11月～3月頃、おもに以下の種の越冬を確認している。

ツグミ (*Turdus naumanni*, 成体)

シロハラ (*Turdus pallidus*, 成体)

ジョウビタキ (*Phoenicurus aureus*, 成体)

## 【動物が利用している生活史】

越冬、休息、採餌、移動（渡り）



写真の撮影年月：2022/5/3

写真の説明：公園内で確認されたキビタキ



写真の撮影年月：2021/12/18

写真の説明：公園内で確認されたジョウビタキ

## サイトの管理計画・モニタリング計画

## 管理計画の内容

## 【管理計画の内容】

- 植栽した樹木の成長を促すため、育成段階に応じて、年1～2回の除草を実施する。
- 侵略的な外来植物については、重点的に除草するように努める。
- 植栽した苗木が枯損しないよう、適宜、灌水を行う。
- 目標とする立木密度を念頭に、樹林については、適宜、間伐を実施する。
- 多種類の野草を植栽した見本園、「みなの花野」については、野草の育成、補植を行い、適切な環境を維持する。
- 植栽、除草、間伐などについては、月2回の定例活動、月1回の野草植栽活動のほか、小中学生の環境学習などにおいて、市民、児童生徒、企業、団体などと協働で取り組んでいる。



- 撮影日又は撮影年月：2021年8月25日
- 写真の説明：市民参加による「野の花Labo」活動で植栽した場所の初夏の様子。オトギリソウ、カワラナデシコ、キキョウなどが開花している。



- 撮影日又は撮影年月：2021年7月19日
- 写真の説明：公園内に設けられた池（天水池）の様子。ヌマガエル、トンボ類など水辺を必要とする生物の貴重な生息環境となっている。

## モニタリング計画の内容

## 【モニタリング対象】

鳥類、陸上昆虫類（訪花昆虫類を中心に）、植生景観

## 【モニタリング場所】

鳥類、陸上昆虫類：公園全域  
植生景観：公園内3箇所の定点

## 【モニタリング手法】

鳥類：定点調査、任意観察  
陸上昆虫類：任意採集、定点観察  
植生景観：定点における写真撮影

## 【実施時期及び頻度】

鳥類：4～5月頃、9～10月頃、年2回  
昆虫類：6～7月頃、年1回  
植生景観：7月、11～12月、年2回

## 【実施体制】

兵庫県が専門調査員に委託して実施